

THE DAY



NEWS LETTER

2026 / 1 / 1 Noboru Morishige

YouTube 森繁昇チャンネル



友達、親戚、家族、兄弟姉妹、これを読んでくださる皆さん

2026年1月1日

イエス・キリストの誕生に基づいて年が数え始められて、今年で2026年目。

新年、明けましておめでとうございます。

その後、皆さん元気でしょうか？皆さんが元気にしておられることを心から願っています。

市役所から、後期なんちゃらというカードが…。忘れていた(?)歳を思い出させてもらったが、笑。まだ38。生きてる限りは、「今日から！」と、心を天国に置いて、ガー——と生かせてもらいたい——!!と、また奮い立たされる!! イエス様、よろしくお祈りします。ありがとうございます。

去年の11月の終わり、Bさんのところに泊ってもらった次の日の早朝、私は、京都市にある下鴨神社の境内を歩いていた。先月12月のレターに書いた話の続きです。その終わりの部分をここに書いて、それから続けますね。

濃いオレンジ色の、どでかい鳥居をくぐったら、薄暗い中、あちらこちら、何人かが黙歩。原生林のように、太く、大きく背の高い木がそこら中を埋め尽くし、その中に、切石を端にならべた広い通りや広場があり、真砂土がピッシリと敷いてある。どでかい建造物から比較的小建造物まで、全て、一寸たりとも狂わず、それも最上質のどでかい木で、多くの人の技術と時間と労力をかけ、そして、多大な金をかけて作られた物であることは

一目瞭然！歩いているほとんどの人が、いろんな建造物の前で、二度手を叩き、お辞儀してる。ある人は、頭を垂れて何か念仏のようなものを唱えていた。とてつもなく広い!!昔のある人々の脅威と権力によって作られた物という感覚をありありと感じた。この神社の記録のほとんどは6世紀7世紀から記されているようだが、BC80年頃の記録も見つかったと書いてあった。

「貧弱な者にますます貧弱を認識させるこれらの建造物に、人はただ頭を垂れる。そして、それが日常という歴史として今日がある。」

私は、思い出していた。私が、初めて、イエスから語りかけられた時のことを。創世記1章1節が、もし本当なら、何千年もやってきた日本の仏教や神道は間違っていたのか？そんなはずはない！日本人が間違っているはずがない！日本のすべてのしきたりや風習や宗教が、日本のすべての教育が、私の家族をはじめすべての日本人が間違ってるはずがない！創世記を読んで、はじめて、考え、思ったこと、52年前の、あの時感じたあの気持ちを、あの朝、下鴨神社で思い出していた。

本当のことを知りたい

私は聖書に書かれている神を知りたかったのではないのです。信じたかったのでもないのです。私は、ただ本当のことを知りたかったのです。

私は、アメリカ・テネシー州でクリスチャンの

人々に会ってから、それまでほとんど考えなかったことを考えることになりました。それまでは、自分のこと、自分の人生のこと、自分の人生に対しての考え（あまりなかったけど）、それを人間だけで、自分だけで、自分中心で、自分を信じて進むのが当たり前だと考えていました。そして、それとは別に、普通で複雑に、宗教的な文化、しきたり、風習、言い伝えなどが周りにあったのです。それらは私にはほとんど興味のないことでしたが、秋の祭りや、お神輿や、おみくじなんかあったなー、と思い出していました。お寺や神社には、それぞれ専門の分野があり、学業成就、家内安全、商売繁盛、病氣平癒、安産祈願、厄除け、縁結びなど。それらは、いわゆるご利益を受けるため、それぞれのところで祀られている神々や人や、建造物に頭を下げて、願い事を叶えてもらうよう頼むのです。そして、そのようなことは普通で、当たり前のような生活の流れ。

真の神を知るために、私が直面しなければならなかったこと（下鴨神社で52年前のことを思い出していた。）

日本中で偉大な寺や神社を建て、先祖を祀り、崇拜し、敬ってきた日本人々は、間違っていたのか？中国から入ってきた仏教は、弘法大師は、今もまだ行われている仏教の教えやしきたり、それらはみな間違っているのか？それら全ての問いが、冬の日本海の荒波のように容赦なく私を襲った。1973年の秋、創世記1章1節を読んで数カ月たった頃に、その荒波は満潮の荒波となった。そして、神の真理が私の心に示された。なぜ？わからない。たぶん、それは、私が、「本当のことを知りたい！」と、上を向いて叫び続けたからです。神は、私の叫ぶ声を聞かれたのです。

まちがっているのです

創世記1章1節がほんとうであれば、上に書いた日本のことは、全て、創り主の神とは関係のな

い、人間だけのことです。神に造られた最初の間が、神に逆らって罪を犯して以来、創り主の神なしに、自分たちだけの考えと願いと力と欲で、作り上げてきた全ては間違っているのです！神の真理から外れているのです。私は、ここで、決して、それら全てのことを、批判しようとしているのではないのです。

人にはどのような時でも自由意志が与えられています。

人類最初の殺人 創世記4章

アダムとイブから最初に生まれた2人の兄弟カインとアベルの間で起こった殺人。カインが弟アベルを妬んで殺したのです。そこに神が来て「あなたの弟アベルは、どこにいるのか」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の番人なのではないでしょうか。」えーっ？カインは、神が何でも知ってるということを忘れたのです。私は読んだことはありませんが、学生の頃、ある本のタイトルを聞いたことがあります。「カインの末裔」それは私です。私は、神に逆らって人殺しをしたカインの末裔です。私たちは殺人をするカインの遺伝子を持っています。神が喜ばない心の思いの中で、人を殺すことさえする。しかし、「自分はそんな者じゃあない」私は、そう思っていた。自分がそんな恐ろしい人なんて考えたことはありませんでした。むしろ、自分は良い人だと思っていました。

腹が煮えくり返る時、メチャむかつく時、人に向かってバカ！アホ！その気になって呼び捨てる、その相手の価値を全く認めない心、「お前はカスだ、お前なんかいなくてもいい」口には出さなくても、一瞬心の中を横切るその気持ち、その感情は、相手の存在さえ認めていない殺人者の心。

イエスは言われたのです。

「昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。し

かし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会で引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナ（地獄）に投げ込まれます。」

（マタイの福音書 5章 21～22 節）

私はその時、自分のことから始めて、家庭、地域、社会、学校、政治、経済、国交、戦争など、世界中の全ての面で悪なるものが、人の心の罪から始まっている現実を胸に見ました。

人類の救いの計画

天と地の全てのものの創り主なる神は人の罪を赦すため、アダムとイブが悪魔の嘘と誘惑にやられて、神に逆らい、罪を犯したすぐ後に、人類の救いを計画しました。（創世記 3章 15 節）

悪魔を滅ぼし、人の罪を赦す計画です。何と！神はご自分のひとり子をイスラエルの子孫の中に、一人の人間としてこの世に送り、全ての人の罪の罰を代わりに受けさせるため、十字架の上で罪人として、死という罰を受けさせ、そして、そのひとり子を死から生き返らせる計画です。天と地の全てのものの創り主なる神は、何でもできるのです。神のそのような計画を誰も想像すらできませんでした。

それは、私たち人に対する愛でした。

人類の罪を赦す神の計画の預言

旧約聖書のわりと初め辺りから神に用いられた預言者のことが書かれています。彼らは、創造主の神を人々に証しし、人々の心を神に向けさせるために神に用いられた人たちです。それと、旧約聖書の後半では、ほとんど全てが預言者の書で、何と 16 人の預言者が神の証しをし、後に来られる救い主イエスの預言をしています。

少し長いですが、救い主イエスが人としてこの世に送られる 700 年くらい前に、神が預言者イ

ザヤに示したイエスについての預言を、ここで一緒に読みましょう。わかりにくいところもあるでしょうが、わかるところも充分あると思います。2 回か 3 回ゆっくり読みましょう。

「私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現われたのか。彼は主の前に若枝のように芽生え、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。

彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。

しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこところであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は未長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によ

て成し遂げられる。彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする。

(イザヤ書 53 章)

今も働く悪魔の力

この神の計画をダメにしようと悪魔は、アブラハムの子孫からキリストが生まれると約束された神の計画をつぶそうとしました。そして何度もその家系であるユダヤ人の人種を滅ぼそうとしました。キリストがこの世に生まれてからすぐも、悪魔は邪悪なヘロデ王を使って、イエス・キリストを殺そうとしました。イエスが生まれたベツレヘム一帯の2歳以下の男の子を皆殺したのです。最後に、悪魔は、イエスの十二弟子の一人、イスカリオテのユダを使って、キリストを殺させたのです。

しかし、しかし、悪魔は神の計画の全部は知らなかったのです。神は、ひとり子イエスに人類の罪の罰である死を受けさせ、死んで三日目に死人の中から生き返らせたのです。罪のない神の子イエスが、世の罪を全て負って、罪人として神から死という罰を受けたのです。そして、イエスを死人の中から生き返らせることによって、誰でも、神の前に自分の罪を認め、イエスの身代わりの愛を、感謝して心に受け取る時、全ての罪が赦され、この世での死は力がなく、イエスが死人からよみ

がえったように、この世の死の後で、天国で生き返り、イエスと一緒に永遠に生きるのです。神のこのプランを、悪魔は知らなかった。

今回、これらのことを書いたのは、聖書のゴスペルが、現実であり、真実であり、真理であることを、このレターを読んでくださる方に、感じてほしい、知りたくなってほしいからです。

悪魔は、イエスが死んでよみがえって人類の救いの働きを終えた後も、まだしばらく神に逆らって働いています。人に、神の真理、ゴスペルを知らせないようにするのです。

身近なことで…、先月世界中で祝ったクリスマス。いつ頃からか、Christmas は X'mas になり、今は、ハッピーホリデーが普通！ 人類のたった一人の望みであるキリスト（救い主）を知らせない邪悪な力がまだ働いています。しかし、もし、人が、イエスを知りたい、本当のことを知りたい、と心を開いてイエスを求めるなら、悪魔は、その人の心を邪魔することができないのです。「探しなさい。そうすれば見つかります」の神イエスの言葉をだれも変えることはできないのです。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を（私たち罪人を）愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(ヨハネ3章 16節)

働きの必要があります。祈ってください。

Noboru Morishige

ザ・デイ / 森繁 昇

〒744-0019 山口県下松市桜町2丁目17-24

FAX ▶ 0833-91-6492

E-mail ▶ thewindisblowing@hotmail.com

振替口座 ▶ 01330-4-93687 ザ・デイ

HP / thedaywill.com

Noboru Morishige

P.O.BOX 1666

KEAAU, HAWAII 96749 U.S.A

TEL ▶ 808-966-9252

